

# 平成27年度 普及活動 成果集

女性農業者経営ビジョン策定研修  
(農業機械研修)



集落営農組織による麦の収穫



仔牛の体重測定



アジサイの新品種



ホウレンソウ研修会



秋王

福岡県  
久留米  
普及指導センター  
平成28年3月

## はじめに

久留米普及指導センター管内は、筑後川の豊富な水、そしてその筑後川流域と耳納山麓に形成された農地で、多くの品目で優れた農業経営が行われており、県内でも後継者が数多く就農するなど、今後の農業の発展・拡大が大きく期待されております。

平成 27 年度は、8月に台風 15 号が 9 年ぶりに九州北部に上陸、1月には積雪とマイナス 6℃の最低気温を記録した寒波に見舞われ、ハウスや農作物に被害が発生しました。毎年のように発生する異常気象の中で農畜産物の生産管理がますます難しくなっているところです。

県では、「福岡県農林水産業・農山漁村振興条例」の 3 つの基本理念である「収益性の高い足腰の強い農林水産業の確立」、「安全で安心な農林水産物の生産と食及び木材利用の重要性への県民の理解促進」、「景観の形成や県土の保全など多面的機能の維持増進」に向け、各種施策を行っております。

普及指導センターといたしましても、関係機関や生産者の皆様としっかり連携し、部門ごとの課・係体制と地域を対象としたプロジェクト班体制をとり、農業発展の支援に取り組んでいるところであります。

この成果集は、そのような取組みの一端を掲載したものです。まだまだ、発展の過程にあるものが多くありますが、普及指導センターの活動をご理解していただく参考になれば幸いです。

平成 28 年 3 月

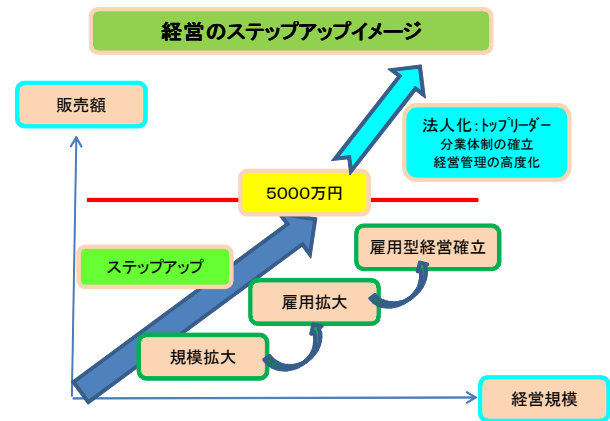
朝倉農林事務所久留米普及指導センター長 林 信行



# 1 経営のステップアップによるみい地域の農業振興 ～産地をけん引するトップリーダーの育成～

【対象の概況】	25	10	136	33
		40		2
		45		

【課題化の背景】（実施期間：平成 25～27 年度）



【活動内容】



写真1 技術・経営相談会

【成果】

36                      29



写真2 法人化研修会の開催

25 27                      45

5,000  
25 27  
17                      5,000

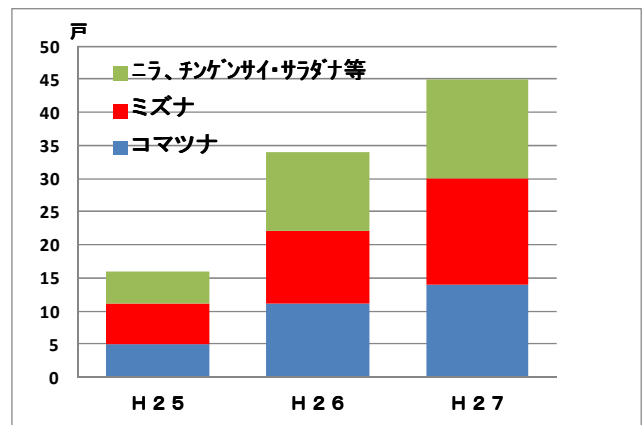


図1 施設園芸規模拡大農家数（累計）

25 27                      10

【これからの取組み】

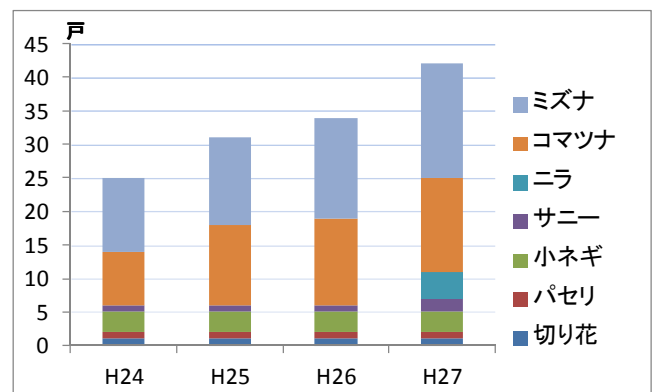


図2 販売額5,000万円達成農家数（累計）

## 2 新規就農者の定着と経営確立に向けた取り組み

### 【対象の概況】

平成 24～26 年度における、久留米普及指導センター管内新規就農者数は 116 名、うち新規参入者と U ターン就農者の合計は 105 名（90%）に上り、年齢も 30 歳以上が多数を占めています。

### 【課題化の背景】（実施期間：平成 27 年度）

多様化した背景を持つ新規就農者への支援と新規就農者間の交流を図る必要があります。また、平成 26 年 10 月からは、認定新規就農者の認定が県から市町へ移管され、青年就農給付金の業務と合わせて、新規就農者支援に関する市町の役割が拡大しました。

### 【活動内容】

#### 1 新規就農者への支援

##### ○ 関係機関との連携強化

・普及指導センターで一括して開催していた新規就農者意見交換会を関係機関との役割分担のもと市町単位で開催、新規就農者が抱える課題への助言者として、農業士、アドバイザーが参画

・土壌肥料、病害虫の講座や視察研修などの営農基礎講座の開催

##### ○ 新規就農者個別巡回の実施

・ J A の部会に参加していない新規就農者や給付金未受給者等、関係機関との関係が希薄となりがちな新規就農者に、普及指導員が巡回し経営目標達成に向けた支援を実施



意見交換会（久留米地区）

### 【成果】

#### 1 新規就農者への支援

##### ○ 意見交換会等への参加者が増加

新規就農者意見交換会、営農基礎講座を、平成 27 年度は市町、J A、農業士、女性農村アドバイザーとの連携のもと、久留米、三井、うきはの 3 地区で開催しました。

従来、10 名前後であった新規就農者の参加者が 60 名以上と大幅に増加し、少人数グループでの意見交換等について参加者から高い満足度が示されました。

##### ○ 目標を達成した新規就農者が増加

担当者による巡回を実施し、研修会等への参加促進、経営上の課題解決のための聞き取りを行った結果、約 30% の新規就農者が就農計画策定時の目標を達成しました。

### 【これからの取組み】

関係機関、農業者との連携強化によって、新規就農者への各種支援活動を実施することができました。参加者からの意見を参考にして、新規就農者の経営確立に資するよう内容の充実を図っていきます。

（地域振興課 地域係）

### 3 集落営農組織の法人化支援

#### 【対象の概況】

管内の集落営農組織（100 任意組織）（平成 26 年度）

#### 【課題化の背景】（実施期間：平成 27 年度）

管内の集落営農組織では、地域の永続的な担い手育成や経営所得安定対策への対応、経営力強化のため組織の法人化が求められています。

そこで、法人化を志向している集落営農組織に対し、関係機関と一体となって法人化に向けて重点的な支援を行いました。

#### 【活動内容】

- 1 各地区・JA ごとの取り組み
  - 担い手連絡会議、プロジェクト会議等で重点組織の選定、法人化までのスケジュール策定、研修内容の検討
  - 集落営農組織の法人化に向けた研修会等の実施
- 2 重点組織支援
  - 組織ごとの状況に対応した個別課題解決の支援
  - 福岡県農業経営アドバイザー派遣事業を活用した法人設立支援（税理士、司法書士が指導）



集落営農法人の創立総会（久留米市）

#### 【成果】

- 平成 26 年度までに、管内で集落営農法人は 32 組織設立されました。
- 平成 27 年度は、久留米市で（農）大坪ファーム（5 月）、田川西生産組合（5 月）、（農）筒江（7 月）、（農）さんのう（9 月）、（農）くるめ・大橋ファーム（12 月）、（農）すみよし（3 月）が設立されました。
- また、小郡市で（農）花立（7 月）が設立されました。

管内の集落営農法人数（単位：組織）

市町名	H24 年度まで	H25 年度	H26 年度	H27 年度
久留米市	11	4	8	6
小郡市	3			1
うきは市	4			
大刀洗町		1	1	
計	18	5	9	7

#### 【これからの取組み】

今後も、関係機関・団体等と連携し、集落営農組織の法人化に向けて重点組織への支援を行うと共に、法人化した組織の経営力の強化を図ります。

（地域振興課 水田農業係）

#### 4 県育成の水稻新品種「実りつくし」の現地適応性の実証

##### 【対象の概況】

管内の平成 27 年産主食用米品種別作付面積 (ha %) 朝倉農林事務所調べ

	てけす	てけす	バ	た	
(ha)	1,101	1,052	3,020	812	5,985
(%)	18.4	17.6	50.5	13.6	100.0

##### 【課題化の背景】(実施期間：平成 27 年度)

ち てけす バ くけ と  
すち すと ななや  
26 れてけす な ちさな こ  
すと す すち  
れてけす いれ け

##### 【活動内容】

れてけす  
き き  
す  
す すち



「実りつくし」の収穫

##### 【成果】

れてけす  
れてけす バ な  
すと  
け 13  
りれ い さな バ し すち  
け  
やっ さな きれ すち  
すと すち



倒伏程度の品種間差

##### 【これからの取組み】

や ヒ ななや  
れ く



## 5 病害対策によるハウレンソウの生産安定

### 【対象の概況】

ハウレンソウ生産組織状況				(H24 年度実績(加工を除く))			
組織名	戸数	面積	出荷量	組織名	戸数	面積	出荷量
JA くるめ	43 戸	28ha	295t	JA にじ	66 戸	16ha	254t
JA みい	46 戸	23ha	345t	コスモファーム	1 法人		
				計	156 戸	67ha	894t

### 【課題化の背景】(実施期間：平成 26～27 年度)

機械化や作業の外部委託により産地が拡大するなか、平成 25 年 11 月から翌年 5 月に管内のハウレンソウにおいて「べと病」が発生し、春先の出荷量が大きく減少しました。大発生した主な要因として下記が上げられます。

- ①□防除対策が抵抗性品種の利用に偏っていたこと。
- ②□農薬による予防防除はほとんど実施されていなかったこと。
- ③□病害の拡散速度が速く生産者個々の防除では地域として抑えきれなかったこと。
- ④□各組織の情報を共有する体制がなかったこと。

### 【活動内容】

#### 1 効果的な防除体系の確立

- 発生状況調査及び農家における農薬防除効果アンケート調査の実施
- 品種比較展示ほ及び薬剤体系防除展示ほの設置
- べと病対策講習会の開催

#### 2 連絡体制の確立

- 連絡会議の開催  
管内の各 J A、青果市場等で構成し、べと病初発生時の迅速な情報共有及び品種毎の発生状況を把握、効果的な防除対策を検討しました。



ハウレンソウべと病連絡会議

### 【成果】

#### 1 生産の安定

- 総合的な防除体系モデルの作成及び防除率の向上
- 新たなべと病抵抗性品種の導入

#### 2 連絡体制の確立

- 地区・組織を越えた連絡会議の開催による情報共有
- 迅速な情報共有により、防除効果の高い発生初期の防除が可能となりました。



現地研修会

### 【これからの取組み】

新たに導入した抵抗性品種でも一部の地域においてべと病の発生を確認したため、今後も各組織相互の情報連絡体制を維持し、地域が一体となった防除対策を推進します。

(野菜花き課 野菜第一係)

## 6 新技術導入によるトマト・キュウリの増収

### 【対象の概況】

J Aにじトマト部会（構成員数 41 人 面積 1,345ha うち養液栽培 834a）

J Aくるめトマト部会（構成員数 20 人 面積 530a）

J Aくるめキュウリ部会（構成員数 20 人 面積 424a） （平成 26 年度）

### 【課題化の背景】（実施期間：平成 25～27 年度）

冬春トマト、キュウリ栽培では厳寒期のハウス内の炭酸ガス濃度の低下対策が課題となっており、新技術としての光合成促進装置の導入効果の評価が求められていました。

また、冬春トマト栽培における省エネ対策としてのヒートポンプ、冬春キュウリにおける生育促進及び病害防止対策としての循環扇の導入が検討されていました。

そこで、高収量者や新技術導入施設の栽培管理や生育状況を調査分析し、収量向上のための支援を行いました。

### 【活動内容】

#### 1 新技術導入にむけた支援

- 試験研究成果に基づく新技術説明会の開催
- 新技術展示ほの設置

#### 2 収量向上のための支援

- 炭酸ガス濃度、温湿度管理の調査分析
- 栽培管理、病虫害防除(天敵導入含む)の情報提供



トマトの生育調査の様子

### 【成果】

#### 1 新技術導入農家の増加

- 光合成促進装置

増収効果が高い技術であることから、J Aくるめキュウリ部会では 24 年度未導入から 27 年度には 14 戸が導入しました（以下、導入比較年度は同じ）。なお、既に導入が進んでいた J Aにじトマト部会では導入農家は 5 戸から 9 戸に増加しました。

- ヒートポンプ

暖房コストの削減に向け J Aにじトマト部会で 11 戸から 20 戸に増加しました。

- 循環扇

J Aくるめキュウリ部会では 17 戸から 19 戸に増加しました。

#### 2 収量向上

- J Aくるめキュウリ部会の 27 年度収量は 19.4t/10a で 24 年度を 1.4t 上回りました。



ヒートポンプ

### 【これからの取組み】

新技術が導入されたほ場を対象に環境管理実態調査、生育調査を継続し、より生産性の高い施設内環境管理技術の確立を図ります。

（野菜花き課 野菜第二係）

ル られ

】

95 26

】

27

オ ナ そ す がで オ 26  
 た  
 なナ っ け さ ナ ち を た  
 た  
 っす の そ な  
 のグ バ た

】

オ ま  
 オ  
 オ  
 ナ の め し  
 の そ  
 ま た し  
 し  
 せを

】

オ け  
 6.9 そ そ 540  
 ナ  
 そ そ  
 10  
 そ こ オ そ  
 がで そ  
 そ そ  
 オ リヤ そ そ



】

そ オ た ののよ  
 ま た そ た そ  
 こ た こ こ

## 8 花き・花木産地を担う青年農業者の育成

【対象の概況】 26

10 H24  
9 H25  
(3 H24 )  
(5 )

【課題化の背景】(実施期間：平成 27 年度)

【活動内容】



現地検討会

【成果】

11 12

(6 )



有志勉強会

【これからの取組み】

## 9 カキ「秋王」の導入推進と「早秋」の安定生産による産地の再興

### 【対象の概況】

かき部会状況		(平成 26 年度現在)		
		ha	ha	ha
JA	549	404.0	14.2	18.1
JA	85	42.0	3.8	1.8

### 【課題化の背景】(実施期間：平成 25～27 年度)

10 11

10

### 【活動内容】

### 【成果】

23 0.4 ha 27 25.6ha

1500kg/10a

23 0 27 39

23 18.8ha 27 21.8ha

### 【これからの取組み】

27



「秋王」の現地講習会

		(ha)		
				ha)
JA す	47	24	6	1.8
JA れ	19	9.9	6	2.2
	66	33.9	12	4.0

: 27

ジ と き 。 は き ろで み ジ と 。  
 き に と き みれ 。 は 。 は き  
 ぎに に で み  
 ごと は ジ 。 に る き ろれ  
 は ん で れ ごと ごは 。 じ ジ ん じ。  
 じ。 ん は ん で み み。 ん  
 は ん 。 ジ は ん で み

は く は  
 は 。 さ は  
 。 は  
 は  
 。 れ は  
 。 は  
 は 。 は



は く は  
 れ すと く き じ。 れ  
 き じみじ 年 26 32 年 27 53  
 は  
 すは と ん じみじ は 。  
 き 50 じみじ

れ じで ぎみ で。 は る。 る く とぎ  
 み 。 は は ん 。 は  
 ん で ぎみ

## 11 経営継承を見据えた酪農家への経営支援

### 【対象の概況】

県酪協久留米支所・朝倉事業所所属酪農家  
(構成員数 94 戸 経産牛飼養頭数 4,092 頭) (平成 26 年度)

### 【課題化の背景】(実施期間：平成 25 年度～27 年度)

経費高騰による収益性悪化が顕著な中、酪農経営においては牛群規模、自給飼料および副産物収入の確保並びに適正な経営管理が不可欠となっています。

そこで、今後の円滑な経営継承を進めるため、生産基盤の維持については組織と個人に対して一体的な支援を行うとともに、後継者の経営関与を促す支援を行いました。

### 【活動内容】

#### 1 繁殖検診・個別巡回の定期的実施

- 獣医師及び人工授精師と連携して繁殖改善指導
- 牛群検定データを活用した飼養管理改善の指導

#### 2 講習会の開催

- 自給粗飼料生産講習会を開催し、作付計画や肥培管理を指導、また、自給飼料の計量や分析を支援
- 肉用子牛生産講習会を開催し、各血統の特徴の解説や、哺乳管理、群管理技術を指導

#### 3 経営講座・経営分析の実施

- 各地区の青年組織メンバーを対象とした経営講座を開催し、青色決算申告書を用いた経営の分析・把握方法を解説
- 経営コンサルを実施し、課題の洗い出しやその解決方法を検討



肉用子牛生産講習会

### 【成果】

#### 1 経営改善意欲の向上

- 後継者を中心とした若手酪農家で、生乳 1 kg 当たり生産原価等の経営指標を把握できる農家が増加しました。(H26: 14 戸 → H27: 22 戸)
- 久留米地域の今村浩星氏が九州酪農青年女性発表大会において、収益性や飼養管理技術、資源循環型酪農の実践等が高く評価され、農林水産省九州農政局長賞を受賞されました。
- 久留米地域の太石信氏が日本酪農研究会において、PDCA サイクルを活用した経営改善活動が高く評価され、努力賞を受賞されました。



九州酪農青年女性発表大会

### 【これからの取組み】

酪農経営基盤の維持に向け、限られた労力で生産効率を高め、生産上のロスを減らすよう、生産技術力および経営管理能力の向上を引き続き支援します。  
(果樹畜産課 畜産係)

## 12 トピックス(注目の活動・技術の紹介)

### (1) 工程管理でコマツナの品質と信頼の向上

#### 【対象の概況】

16                      27.8ha                      4,290t                      27

#### 【要 約】

27   6   18                      JGAP    JGAP

138

3

#### 【活動内容】

JGAP



コマツナの収穫作業



農薬一覧表等の掲示

#### 【これからの取組み】



## (2) 博多和牛素牛産地の育成

### 【対象の概況】

久留米和牛改良研究会 (平成 27 年 7 月現在)

項 目

## 13 参考資料

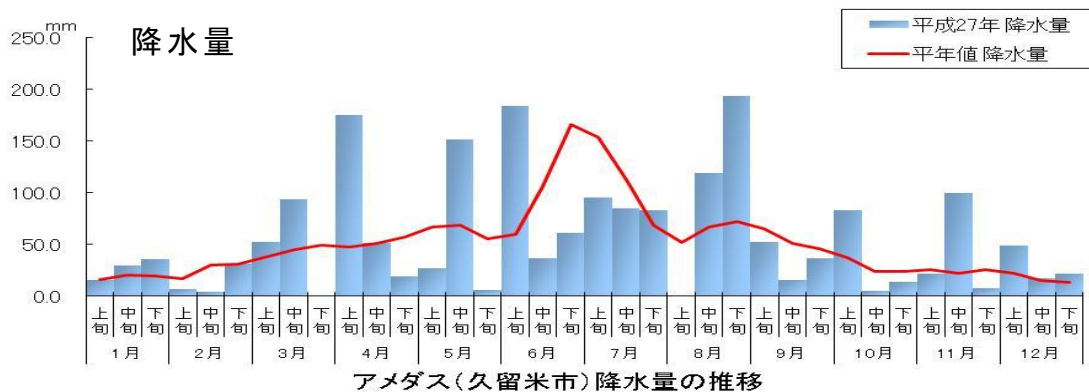
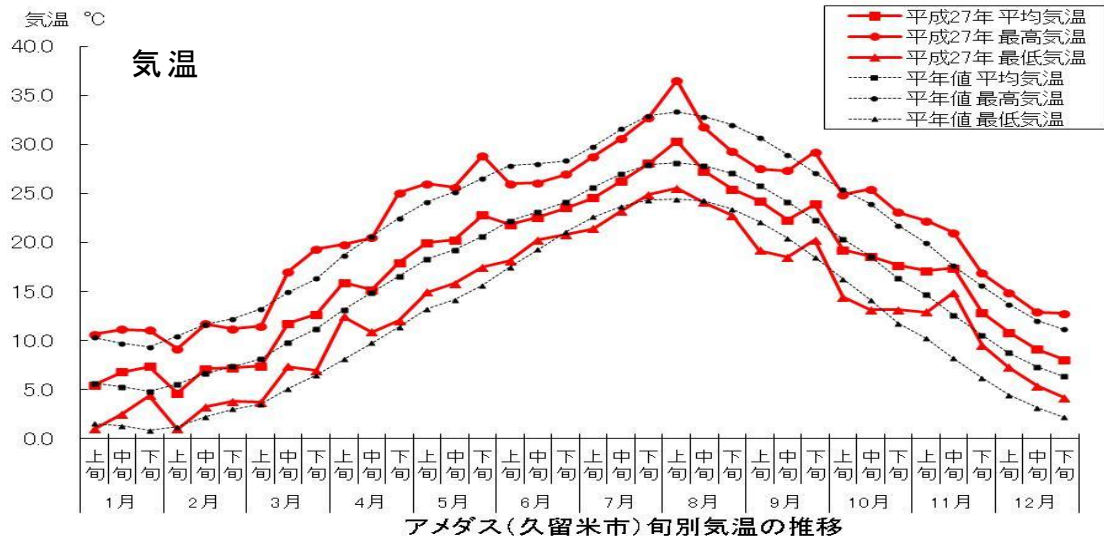
### (1) 平成27年の気象

平成27年の管内の気象は、年平均気温17.1℃(平年16.3℃)でやや高く。年降水量は2063mm(平年1844.7mm)と多く、日照時間は1874時間(平年1972.0時間)でやや多かった(アメダス久留米)。

気温は、2月から3月上旬まで低かったが、6月上旬までは暖かく推移し、6月以降は平年より低く、8月上旬を除いては冷夏であった。10月以降は平年より高く推移した。

降水量は6月上旬から8月上旬にかけて平年より少なかったが8月中下旬は平年より多かった。

日照時間は1月、3月、5月は多かったが、6月から7月にかけて少なかった。この期間は気温も低かったため、低温、日照不足により、いもち病の発生や作物の生育不良等の影響が発生した。



## 27年度の主な気象災害の状況

### 1. 春先の低温による被害

暖冬の影響で生育が早まっていたところに、3月25、26日の早朝の低温によりイチジクを中心に発芽障害が発生した。写真1は、4月になっても発芽しない状況、写真2は、対策として、主枝の切り戻しを行って仕立て直している状況



写真1 イチジク発芽不良の状況



写真2 イチジク主枝の仕立て直し

### 2. 台風15号による被害

8月25日の台風15号により、施設栽培でハウスの倒壊や被覆ビニールの破損が発生した。露地野菜では、葉の損傷や倒伏が発生した。果樹では、落葉や果実の落下が発生した。



写真3 倒壊した軟弱野菜ハウス



写真4 落下したナシの果実

### 3. 大雪、低温による被害

1月24、25日、大雪と最低気温 $-6.5^{\circ}\text{C}$ を記録する寒波に見舞われたために、露地野菜や果樹幼木・苗に低温害やトンネル栽培において、トンネルが雪により潰れ、ハウス施設の倒壊、灌水施設の破損等の被害が発生した。



写真 倒壊した花き鉢物栽培ハウス



写真 潰れたリーフレタスのトンネル

(2) 平成27年度の主な展示ほ概要

対象作物	課題名	市町村	結果の概要
水稲	飼料用米「ミズホチカラ」の多収栽培体系の確立 (省力施肥体系、品種比較)	うきは市	基肥一発肥料を用いた省力区は、分施肥に比べて肥料代が約3,000円/10a程度高くなったものの、収量が2%増えた(553kg/10a)ことから、約1,000円/10aの収入減にとどまった。 早期収穫を目的に行った品種比較では、「ツクシホマレ」は「ミズホチカラ」に比べ収穫期が18日早く、収量が約10%多かった(592kg/10a)ことから、約11,000円/10aの収入増となった。
水稲	飼料用米「ミズホチカラ」の多収栽培体系の確立 (栽植密度の検討)	小郡市	栽植密度を3水準(40株/坪、50株/坪(慣行)、60株/坪)で検討したところ、栽植密度が増すにつれ、収量は増加した。栽植密度増加には資材費等の生産コスト増が伴うが、収量増により交付金が増額するため、収益性は向上した。
小麦	硬質小麦「ミナミノカオリ」高品質省力生産のための施肥体系の確立	久留米市 田主丸町	慣行区(基肥+追肥2回+穂揃い期硫酸)に比べ、追肥一発肥料「硬質小麦専用3004」を40kg/10a施用した区では、肥料代が約3,000円/10a高くなったが、収量が10%増えた(399kg/10a)ことから、収入は5,500円/10aの増加となった。 また、追肥一発肥料「硬質小麦専用3004」を30kg/10a+穂揃い期に硫酸を施用した区では、慣行区に比べ、収量は同等で、肥料代が約2,000円/10a高くなった。
ハウレンソウ	土壌改良における各種石灰質資材の酸度矯正効果の比較調査	久留米市	石灰質資材による土壌酸度矯正効果は、資材の粒径が小さくなるほど効果が高まることが確認できた。そのため、矯正が必要な場合は、作業性より矯正効果の高い剤型を選択する必要がある。また、土壌ECが高まると、pHが下がる傾向があるため、基肥施用量に注意が必要である。
サラダナ	根腐病抵抗性品種の現地適応性調査	久留米市	抵抗性は確認できたが、栽培技術に課題が残る。
イチゴ	マルチ前追肥と畝溝追肥による増収効果の試験	久留米市 (三潁町)	イチゴ定植後追肥をマルチ被覆前に行っているが、マルチ前追肥を行っただけ区とマルチ前追肥の後、畝溝に追肥を行う区を設定し、収量・生育に及ぼす影響を検討した。草高などの生育状況はどちらも大差なかったが、収穫量は2月上旬から3月上旬にかけて畝溝追肥区の方が上回っており、合計でも多かったことから、畝溝追肥による増収効果があった。
イチゴ	イチゴ(あまおう)における二酸化炭素の日中施用の効果試験	久留米市 (城島町)	イチゴ栽培における二酸化炭素の施用について早朝のみ(45分)と早朝+日中施用区(15分×3回)の比較を実施した。その結果、日中施用区の方が早朝施用のみより生産量の増加が見られたが、二酸化炭素濃度を効率よく外気以上に保ったためであると思われる。
トルコギキョウ	電照が春出しトルコギキョウ早期出荷に及ぼす効果	小郡市	定植直後から開花輪発蕾まで、早朝4時間の電照を行った区では、電照を行わない対照区と比較して、発蕾日が早く、ブラスチング(花芽の生育停止)発生率は少なかった。 今後、収穫時期や切花品質の調査を行う。

対象作物	課題名	市町村	結果の概要
アジサイ	県育成アジサイ「筑紫の風」の手まり性に及ぼす施肥方法の検討	久留米市	「筑紫の風」は生産者によって花序の形に差があるため、施肥方法と装飾花の数の関係性を検討する。 6月上旬に140日タイプの置肥3g、10月上旬に70日タイプの置肥1gを施用した区が、枝の充実、枝数、コンパクトな草姿を兼ね備えた苗となった。
カキ	フジコナカイガラムシの発生予察	うきは市	フェロモントラップによりフジコナカイガラムシの雄の発生状況を調査することで、第1世代の幼虫の発生ピークを推測できた。今後、調査箇所数を増やし、フジコナカイガラムシの防除に活用する。
カキ	「秋王」のジベレリン処理濃度の違いによる果皮障害に及ぼす影響	うきは市 久留米市	平成27年は、晴天時にジベレリン処理を行い、処理後は薬液を振るい落としたため果皮障害は発生しなかった。このため、ジベレリン処理濃度の違いによる果皮障害の差は認められなかった。
カキ	環状剥皮が「秋王」の着果率に及ぼす影響	うきは市	「秋王」の幼木で満開後20日後に環状はく皮を実施すると無処理区に比べ着果率は高くなった。ただし、樹勢が非常に強い場合は、十分な効果は得られないため今後は処理方法等の更なる検討が必要。
カキ	カキのフジコナカイガラムシの発生状況と今後の対策	うきは市 久留米市	収穫時にフジコナカイガラムシの寄生が多かった園は、4月下旬時点で既に寄生が多かった。このため、収穫時にフジコナカイガラムシの発生が多かった園では、翌年の弱齢幼虫発生期の4月上・中旬からの防除を行い、越冬密度を低下させる必要がある。
カキ	フジコナカイガラムシの交信攪乱剤設置密度の検証	うきは市	フジコナカイガラムシの産卵抑制対策に交信攪乱剤を用い、剤の設置密度と園の状況による産卵抑制効果の検証を行い効果があることが実証された。次年度も交信攪乱剤の早期実用化に向け病害虫部と連携調査を行う。
ナシ	ジョイント栽培による省力化栽培の推進	うきは市 久留米市	ジョイント園を活用し、講習会、女性部、青年部の研修会で理解や、技術習得ができた。
飼料イネ	極短穂型WCS用イネ「たちすずか」生産における省力施肥法の比較検討	久留米市 朝倉市	窒素溶出パターン異なる2種の一発肥料(従来から使用されている肥料を「慣行区」、たちすずか専用開発された肥料を「専用区」とする)を用いた結果、10a当たりの収量は生草収量で慣行区3,920に対して専用区3,501kg、乾物収量で同1,537、同1,325kgであった。穂重割合は同23.3および同19.6%であった。 管内別地区で同様の栽培を行ったが、生育状況や生草および乾物収量は慣行区と展示区の結果が逆転したため、両肥料の相違を明確に結論づけることはできなかった。
イタリアンライグラス	イタリアンライグラス新品種「きららワセ」の性能調査	久留米市 朝倉市	10月中のは種が望まれるイタリアンライグラスにおいて、それ以降には種がずれ込んでも収量低下が少ないとされる新品種の性能を調査中。

(3) 平成27年度 普及活動情報一覧

平成27年度に普及指導センターがホームページなどで広く提供した情報です。

No.	タイトル	執筆係	作成日
1	酪農家が自慢の子牛を出品！ 乳牛改良同志会主催「甘木朝倉ベビーショー」開催	畜産係	4月8日
2	小麦の品質向上にむけて JAにじ麦部会設立後、初の穂揃い期管理講習会を開催	水田農業係	4月13日
3	柿部会の販売目標17億円以上を達成 JAにじ柿部会が生産販売反省会・総会を開催	果樹係	4月24日
4	”Hydrangers FUKUOKA”始動 アジサイの技術向上・高品質生産を目指します！！	花き係	5月8日
5	小学生がブドウのふさ作りを体験 ブドウ園で農作業体験教室を実施	果樹係	5月27日
6	今年も大きな柿になってね！ 大玉生産に向けて摘蕾作業実施	果樹係	5月27日
7	切り花品質を確かなものに JAにじ花部会が日持ち性向上対策品質管理認証を取得！！	花き係	5月29日
8	加温ハウスモモ、高品質で出荷ピーク！ JAぐるめハウスモモ研究会が出荷最盛期を迎える	果樹係	6月4日
9	吉井町養豚組合に全国農業コンクール久留米市局長賞 循環型農業で地域ブランドを展開	畜産係	6月15日
10	父の日には牛乳(ちち)を贈ろう！ 酪農女性部が牛乳消費拡大PRを実施	畜産係	6月17日
11	秋には、大きく紅い柿を消費者へ！ 柿部会で夏季管理指導会を実施	果樹係	6月18日
12	ブランド米づくりを支援 JAぐるめにおいて水稲「元気つくし」の栽培講習会を開催	水田農業係	6月19日
13	「ラー麦」収穫！ ラーメン用小麦品種「ちくしW2号」は今年も適期に収穫終了	水田農業係	6月19日
14	園芸農業における経営強化に向けて 三井地区企業的農業経営研修会の開催	地域係	6月24日
15	おいしいトウモロコシが収穫できたかな？ JAみいスイートコーン部会が消費者交流会を実施	野菜第二係	6月30日
16	安全・安心なパセリづくりに取り組んでいます！ 反射マルチを活用した害虫防除	野菜第一係	7月6日
17	おいしいデラウェアを探せ！ ブドウの収穫体験学習を実施	果樹係	7月15日
18	新鮮なニラをお届けします ニラのパッケージ内のガス濃度調査を実施	野菜第一係	7月22日
19	6次化の支援に向けて研鑽 JAにじ管内農業振興協議会研修会を開催	地域係	7月27日
20	女性農業者経営ビジョン策定研修を開講！ 平成27年度女性の視点を活かした農業経営発展支援事業	地域係	7月27日
21	「元気つくし」の高品質・高収量を目指して JAにじ管内で中間管理講習会を開催	水田農業係	8月4日
22	小松菜部会の技術・経営相談会を開催 安定した産地を目指し、土壌と経営を振り返る。	野菜第一係	8月5日
23	女性農業者の積極的な経営参画を目指して 第2回女性農業者経営ビジョン策定研修を開催	地域係	8月10日
24	がんばってます！！畜産新規就農者 新技術導入による経営安定支援	畜産係	8月25日
25	「継続は力なり」全国大会出場決定！ 第46回福岡県酪農研究会で大石信氏が優秀賞を受賞	畜産係	9月1日
26	飼養者と牛の安全を守るために ロープワーク講習会を開催	畜産係	9月1日
27	信頼される小松菜産地を目指して JAみい小松菜部会 JGAP団体認証を取得	野菜第一係	8月27日
28	磨いた知識と鍛えた身体を競い合う 朝倉ブロック農業青年技術交換大会を開催	地域係	9月16日
29	女性農業者が土壌とICTについて学ぶ 三井地区女性農業者経営セミナーを開催	地域係	9月14日

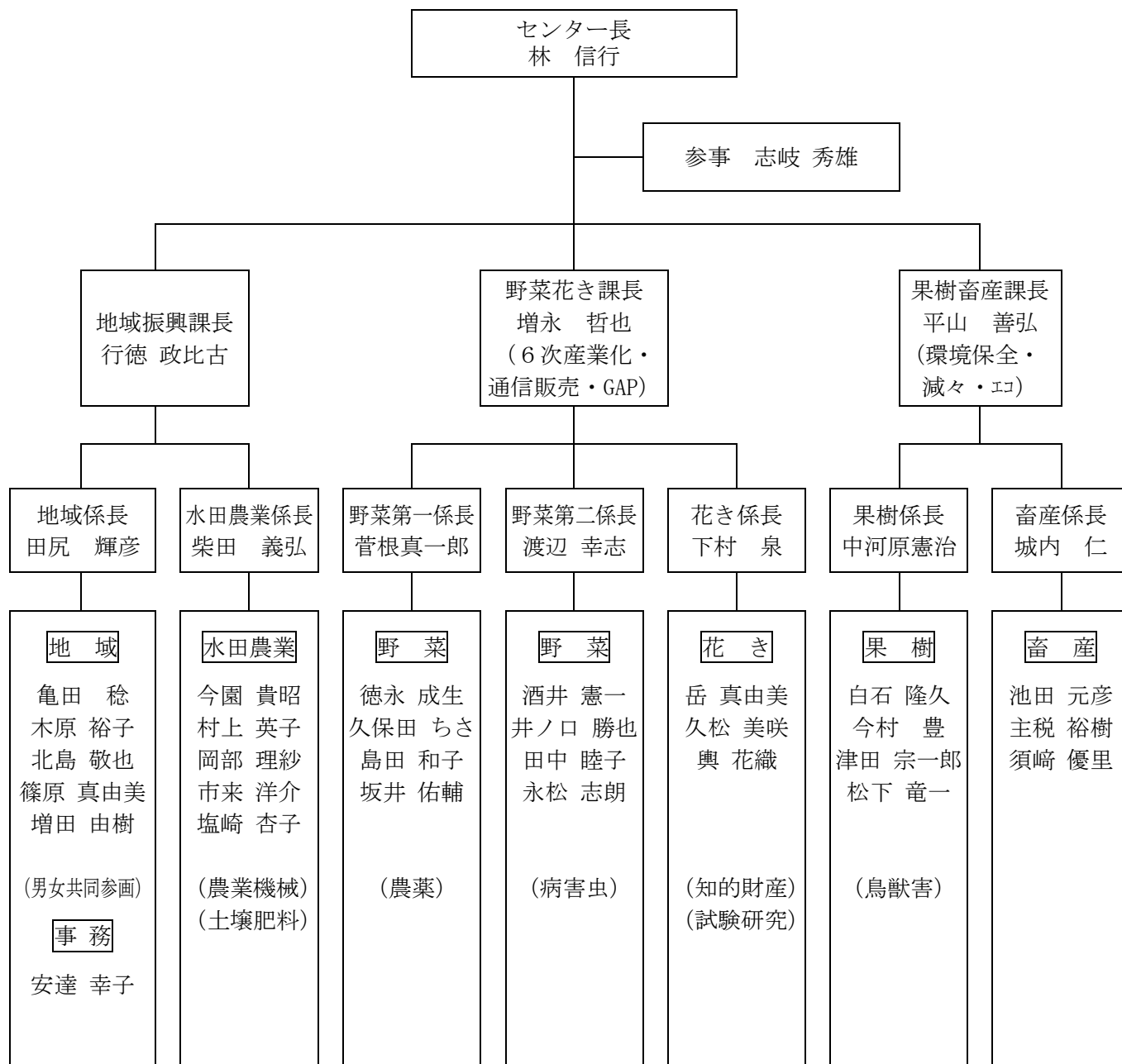
No.	タイトル	執筆係	作成日
30	自給粗飼料のさらなる品質向上に向けて 朝倉事業所イタリアンライグラスサイレージ共励会の開催支援	畜産係	9月17日
31	機械操作につよ女性農業者を目指して！ 第3回女性農業者経営ビジョン策定研修を開催！	地域係	9月28日
32	経営のヒントを先進経営者に学ぶ 三井地区雇用型経営研修会を開催	地域係	10月9日
33	カキ「秋王」いよいよ消費者へ！ カキ「秋王」出荷説明会を開催	果樹係	10月9日
34	小郡市・大刀洗町「新規就農者のつどい」を開催 先輩農業者と交流し、地域との繋がりを深める	花き係	10月13日
35	トルコギキョウの出荷スタート！ JAみいトルコギキョウ販売会議を開催	花き係	10月19日
36	外食産業や消費者の視点を学ぶ 久留米地区指導農業士研修会を開催	役付き	10月23日
37	花の流通最前線を学ぶ 久留米市農振協で花きの販売事例調査を実施	花き係	10月26日
38	今年の冷蔵柿の出来栄は上々 冷蔵柿収穫前のチェック	果樹係	11月1日
39	リーフレタス基礎講座を開催 くるめのリーフレタスは、若い力で元気いっぱい	野菜第一係	11月5日
40	小麦の高位平準化を目指して JAにじ麦部会播種前生産者大会を開催	水田農業係	11月9日
41	相互連携による商品開発で、農業振興を！ 三井地区農業振興大会を開催	地域係	11月10日
42	果実の高品質生産を目指して JAにじ農産物品評会 果実の部	果樹係	11月16日
43	女性農村アドバイザーOBが「農業功労者」に輝く！ ふるさとくるめ農業まつりで表彰	地域係	11月11日
44	うきは市「新規就農者のつどい」を開催 新規就農者間の繋がりを深め、レベルアップ！	水田農業係	12月3日
45	牛乳・酪農のことをもっと知ってもらおう あさくらきてみん祭で酪農家自らが牛乳PR活動を実施	畜産係	12月4日
46	青年農業者が日々の活動成果を発表 久留米地域青年農業者会議を開催	地域係	12月8日
47	女性就農希望者の研修がスタート うきは市トマトロックウールハウスで農業研修	地域係	12月9日
48	青年酪農家が経営改善の成果を発表！ 第67回日本酪農研究会で努力賞を受賞	畜産係	12月8日
49	ブドウ部会が高品質化で目標達成 JAくるめブドウ部会が生産販売反省会を開催	果樹係	12月16日
50	より安全・安心農産物な生産を目指して ふくおかエコ農産物交流会の開催	役付き	12月16日
51	農事組合法人ホウレンソウ出荷始まる (農)アグリふるかわー工程化播種機を導入し作付拡大中	野菜第一係	12月14日
52	九州内外の女性農業者が農業機械研修を受講 夢ある‘農業女子’応援Project in九州が開催	地域係	12月18日
53	おいしい柿は冬の生産管理から！ カキ冬期管理指導会の開催	畜産係	12月24日
54	集落営農法人の経営を強化しよう！！ 「法人経営力強化研修会」を開催	水田農業係	1月15日
55	小学校で柿の出前教室を開催 福岡県のカキはすごい！	果樹係	1月19日
56	野菜産地拡大に向けた新たな取り組み JAにじがホウレンソウの出荷調製作業を開始	野菜第一係	1月21日
57	カキの「雇用型経営」を目指して！！ 久留米市シルバー人材センター援農隊員を対象にせんだい講習会を開催	果樹係	1月27日
58	「雇用型経営」の実現を目指して！！ 「イチゴ」「リーフレタス」の農作業講習会を開催	地域係	2月3日
59	久留米市で青年就農者現地研修を開催 地域の先進的な経営を学ぶ	地域係	2月9日
60	果樹の防除はこれで大丈夫！！ JAにじ果樹防除暦説明会の開催	果樹係	2月5日

(4) 受賞実績

”			
”			
□ □			
□ □ □			
! □		BMSNo.12	

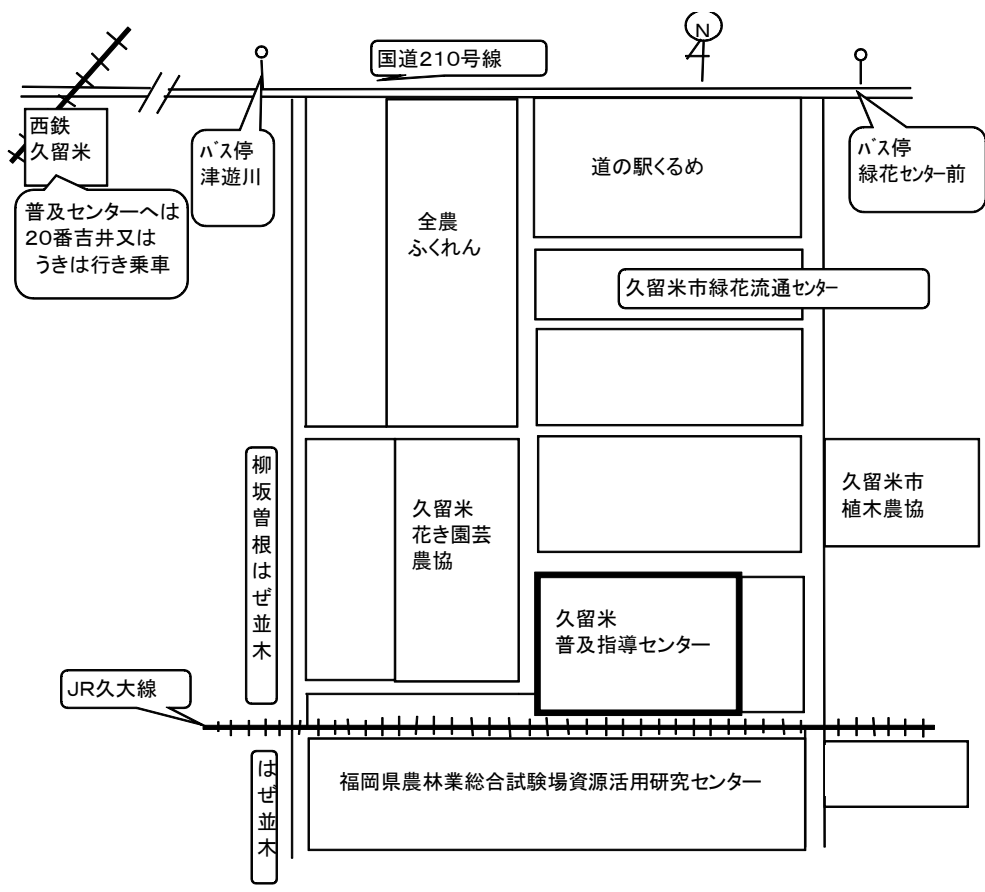


(5) 普及指導センターの活動体制



注：( ) は、所の窓口業務

(6) 久留米普及指導センター位置図



〒839-0827  
 久留米市山本町豊田 1506-19  
 TEL 0942-47-5101  
 FAX 0942-47-5105

福岡県行政資料	
分類番号	所属コード
P A	4703224
登録年度	登録番号
27	0001